

## 第10回和歌山県河川整備計画に係る委員会

平成22年2月15日（月）

- 事務局あいさつ
- 委員の紹介

### 議長

それでは、早速ですが、日方川水系の河川整備計画について、事務局から説明をお願いいたします。

### 事務局

本日は、日方川に関しては、前回ご議論いただいた点と、あと、前回の委員会、12月21日の少し前にアンケート調査を行っておりまして、その結果が出てきておりますので、それを皆さんにご紹介させていただきたいと思っております。

日方川に関しては、こちらの資料のほうで説明させていただきます。まず、資料1をごらんください。これの左側に書かれているのが、前回、議論というか意見が出てきたところで、右に、回答を書かせてもらっています。1番と2番については、前回の委員会の中で、地質の説明がわかりづらいということで、最終的には、隣の河川になるんですけども、亀の川と同じような書き方にしたほうがいいのかというご意見がありましたので、それについては本文のほう、亀の川と同等に「修正後」というのが書いているんですけども、「上中流域を中心に変成岩（緑色片岩・黒色片岩）を主体とした山地・丘陵地が広がるが、中流・下流の河道沿いには砂層による沖積平野が開け、住宅地、水田地に利用されている」という文言に変更させていただきます、この文言の変更については、整備計画の前回の委員会の対比表というのを、資料2のほうでつけさせていただきます。その1ページの、1.1.2の地質というところの、赤字で書かせてもらっている、左側が前回の言葉で、右側が今回修正した言葉というふうに資料をさせていただきます。

続いて、資料に戻ってもらいまして、資料1の3番目、井松原橋の出水について、前回、パワーポイント資料でお見せした資料が、1枚めくってもらった次のページに写真をつけているんですけども、この右側の洪水時の写真が、平成13年の雨で、時間雨量が14.5mmでこんな状態になるのかというご意見がありました。これを確認した結果、事務局のほうの間違いで、平成16年10月20日の撮影で、そのときの和歌山の観測所では総雨量163mm、時間雨量が23mm、重根、この日方川の中流域にあるんですけど、その観測所では、総雨量193mm、時間雨量35mmということで、前回の資料は間違っていましたので、それは本文のところの修正はないんですけども、ここで訂正しておきま

す。

そして、4番目で、昨年11月11日の雨というのは、和歌山市内では観測史上最大だったんですけども、それを資料としてつけ加える必要があるのではないかというご意見がありましたので、今回、参考資料、資料4の16ページの表を見ていただきたいんですけども、その一番下側に追記しております。なお、ここに出ている浸水家屋数512と40というのは海南市全体の数字になっていまして、日方川流域でまだきっちり精査できていない状態ですので、今後、パブコメを行って最終修正を加えていく時に、数字が確定次第、ここの数字も修正を加えていきたいと考えております。

これが前回ご議論していただいた点と、続いて資料5を見ていただきたいんですけども、こちらはアンケート調査結果が載せてありまして、対象として、海南市さんと相談してやったんですけども、日方川流域住民の1,028名に、無作為に抽出しまして、昨年11月19日から12月6日までアンケートをやっています。回答数は353人ということで、回収率は34%なんですけども、これの結果を順番にご紹介させていただきます。

1枚めくっていただいて、2/26の左側の図面なんですけども、後々出てくるんですけども、下流域、中流域、上流域というのを、それぞれご意見で分けているんですけども、下流域というのは今回の整備を行う区間で、うちが提案させてもらっている区間と大体同じ、中流域というのは、幅が広いんですけども、山付けになるところまでの区間が中流域で、山付け部のところを上流域というふうに分けさせてもらって、それぞれこのものもアンケートを配って、それぞれどういうイメージかというのを答えてもらっています。

まず、右側の問1で「日方川についてどんなイメージを持っていますか」という問いに対して、「地域にとって大切な川」というのが35%、「自然を感じる川」が31%というように、我々が思っていたよりも、もっと地元の方々は河川を好意的に思っているんだなというふうな結果になっております。

1枚めくってもらって、4/26のところなんですけども、問2で、「どのくらいの頻度で日方川へ行きますか」という問いに、「ほぼ毎日」、「週に1回から3回」、「月に数回」、「年に数回」、まで入れると約7割というように、かなり皆さん、はっきりどの程度もあるんですけども、7割程度が河川にかかわっていると。「その目的は何ですか」と、下で問3のところでは聞いているんですけども、半数以上が散歩だと。その下にある「自然観察」とか、下から2番目にある「水遊び」というような、川の中で遊ぶようなものは、若干やっぱり少ないような感じに思います。その右側で、下流域、中流域、上流域でどういう結果になったかというのと、「散歩・憩い」というのは、下流も中流も上流も、それぞれ47%、51%、44%とほとんど同じような数字になるんですけども、例えば「生活・農業利用」というのが上から3番目にあるんですけど、下流域にそういう農業用の堰とかもないので、やっぱり中流と上流のほうが大きい値になっています。ほかは大体、下流も中流も上流も同じような数値になっております。

さらに、問4のところで「水辺への近づきやすさについてどう思いますか」というのは、ピンクのところ「やや近づきにくい」から「行ったことがない」までで、約4割を占めていまして、若干近づきにくいのかなというような感想を持っています。

1枚めくってもらって、「大雨に対して日方川は安全だと思いますか」という問いに対して、約6割以上が「危険」と。「やや危険」、「とても危険」というのがピンクと赤になるんですけども、約6割が危険だと。その下のところで「どこをイメージしているか」というふうに、下流と中流と上流で、表で分けているんですけども、「やや危険」、「とても危険」というのが、下流域では2つ足すと大体73%、中流域では68%、上流域では60%と、下流へ行くほど、危険だと思う人が多いというふうになっています。そして、右側のほうで「過去に被害を受けたことがありますか」という問に、2割の方が「ある」と。その2割の方のうち、その下の問7のところで「いつですか」というのは、ちょっとやっぱりこれは最近のイメージが強くて、去年のが18%、古いので「昭和27年」というのがあるんですけども、かなりお年を召した方だと思うんですけども、一応、新しいもののほうが印象に強いように思われます。

まためくっていただいて、「被害の程度はどれぐらいですか」という問いに対して、その被害を受けた中なんですけども「床下」というのが半分、「床上」でも31%とかなり高い数字を示していまして、特にその下の問8-2のところに、下流と中流と上流で分けているんですけども、床上は下流が30%、中流が16%で、今回の整備も下流からということになっているんですけども、床上の数で言えば下流のほうが大きいうことがわかります。

そして今度、環境になってくるんですけども、「水量は豊かですか」というのを問9で聞いているんですけども、約半分の方が「豊かでない」と。「あまり豊かでない」と「全く豊かでない」で約半数ぐらいがあると。その中で、下流域、中流域、上流域でそれぞれ数字を見てみると、「あまり豊かだと思わない」と「全く豊かだと思わない」の下流域の数字が大体57%、中流域で69%、上流域では70%というように、逆に、水の量だと上流の人のほうが水量が少ないというふうな結果になっております。

また1枚めくっていただいて、次に「きれいだと思いますか」という問いに対して、「あまりきれいと思わない」、「全くきれいと思わない」というのが、ピンクと赤で載せているんですけども、これも5割以上の方が「きれいでない」という結果になっています。これをまた、下流、中流、上流で比べるとどうかというと、下流のほうは「あまりきれいでない」と「全くきれいでない」というのが65%、中流が59%、上流が49%というように、下流のほうは、今度はきれいじゃないと感じているみたいです。

次に、「自然環境はどうですか」という問いに、これも「あまり好ましくない」、「全く好ましくない」というのが約4割程度あります。で、これも再度、下流と中流と上流で考えてやってみるとどうなるかというと、下流では51、中流では47、上流では31とい

うふうに、これも下流のほうが自然はあまりよくないと思っているみたいです。ただ、また次のページをめくってもらって、自然をどう考えるかなんですけども、「水が汚い」、「水が少ない」というのが大半の比率になっていますので、やっぱり水が汚いイコール自然が悪いというふうに、どうも感じているような結果になっています。

続いて、利用について問13で「利用しやすくなることに期待しますか」というのが、この青色と水色のところが6割強を占めていまして、使うようにしてほしいという希望があるようで、どういうものに使いたいかが、半数以上、67%が「散歩・憩い」。ただし、この「自然観察」、「水遊び」というのが62%と26%とあるので、川の中も利用したいのかなと。期待しているのかなというふうに思われます。

また1枚めくってもらって、それをまた、下流、中流、上流で見比べてみると、例えば「散歩・憩い」というのはほとんど各流域とも同じぐらいの数字なんですけども、「自然観察」とか「水遊び」も下流の人から上流の人まで、みんなどうも利用したいようで、かなり下流のほうは感潮域なのでなかなか川の中で利用というのは難しいんですけども、一応、そういう希望はあるようです。

次に、問15で「草刈りや清掃等の愛護活動に参加したいと思いますか」という問に対しては、4割強の人が「参加してもよい」というふうに答えてもらっています。

また1枚めくってもらって、日方川の河口のほうで今工事を行っているんですけども、「その整備のことを知っているかどうか」という問に対して、1、2、3「整備の場所・内容を知っている」、「整備の場所は知っている」、「内容は知っている」まで入れると、約6割の方が現場をどうも知っているようで、「どのような整備をしているか」まで知っているのも約6割、要は「家屋等への浸水対策」というのが6割ぐらいの方がわかっていたということ。「それをどのように知りましたか」というのが問18、右側のほうなんですけども、「現地を見て」というのがほとんどと、あと「和歌山県や海南市が発行する広報誌」、工事の説明とかでも資料というのを配ることがあるので、そういうのでも知ったということがわかります。問19で「その効果を実感されますか」という、ちょっと厳しい質問なんですけども、「あまり実感しない」が33%、ただし、その「家屋等への浸水の危険性が少なくなった」というのがその下29%ありますので、3割ぐらいの方は、以前よりはよくなったというふうに感じているようです。

そして、まためくってもらって、問20で「その実施状況に満足されていますか」というのには、45%の方が「満足していない」という、主な意見で特に多かったのが、「工事のスピードが遅い」とか、「土砂がたまっている」というような意見が多かったみたいです。

そして、最後の問になるんですけども、「今後どのような、最優先に何をしてほしいですか」という問いに関しては、半数以上が「大雨から地域を守る川」をまず優先してやってほしいというのが、一番意見が多かったです。

次、めくってもらって、一応、性別とかお住まいとか年齢、ご職業、居住年数というのが、これは無作為に選んでるので、ちょっとばらばらになっていますので、女性の方のほうはどうも今回は多かったみたいで、そういう結果になっています。

あと、このアンケートをとるときに自由意見というのを書いてもらったんですけども、その後22/26から26ページまでだらっと並べさせてもらっているんですけども、353人から回答があったうち、231人の方が自由意見を書かれていまして、1つ1つ説明は省略させていただきますけれど、特に意見が多かったのは維持管理のところ、「浚渫を定期的にもっとやってほしい」という意見と、あとは「水をもっときれいにしてほしい」という意見が、自由意見ではどうも多かったようです。

以上、事務局からの説明を終わらせてもらいます。

議長

ありがとうございます。

ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思えます。

いかがでしょうか。

この日方川については、これで3回目になるんですかね、2回目ですかね。

事務局

今回、2回目です。1回、7月末に現場を視察しております。

議長

現場もありましたね。それで、修正箇所というんですか、少し書き直されるところが、今の資料1にずっと挙げられておまして、それほど箇所も多くないということです。ただ、昨年の大雨がありましたので、その辺のことはちょっと追加しておいたほうがいいのではないかというようなことですが、いかがでしょうか。

今のアンケートについてお伺いしたいんですけども、これはどちらかといえば県の北側なんですけれども、大体、この川が和歌山を代表するというような見方をしてよろしいんでしょうか。なぜ、その日方川についてアンケートされたかということなんですけれども、その背景として。

事務局

ほかの川も全部一応やっているんですけども、今回の場合、ちょっとアンケートがおくれて、ほんとうは第1回目の委員会のときには、もうアンケート結果みたいなのは大体出ていて、参考資料とかでは、一応、文言とか、こういう意見が多いとかいうふうにかかせ

てもらっていたんですけど、今回、ちょっと順番が入れかわってしまったので、あえてちょっとアンケート結果を、すみません、説明させてもらいました。

議長

この円グラフでしたのは、私、初めて見たような気がしたものですから、どうも申しわけありません。

事務局

今まで文言だけしか入ってなかったということで、申しわけございません。

議長

それで、このアンケートについて思うんですけども、回収率が3割ぐらい、だからこの種のアンケートにしては標準的だなという気がするんですが、中身が、ものすごく皆さん、どちらかといえば積極的だという点が、失礼な言い方なんですけど、ちょっと意外な感じがしました。普通、どちらかといえばあまり知らないという人が非常に多い結果になりがちだと思いますけれども、非常に地域の方々がこの川に対して積極的な思いを持っておられるということ、これはもう本当、ちょっと思いのほかでした。

ただ、それで思いますのは、今おまとめになりましたように、維持管理であるとか土砂ということが、それはもう日ごろの川としてごらんになっての結果だと思うんですけども、治水に関してやはりまだまだというような声もあるのではないかというふうに思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

事務局

予算的な制約がまず1つあって、改修しているところは、まだ工事をやっているのが目に見えるので、多分そういう思いはないんですけど、結局、中流から上流の方々というのは、言ってみればほったらかしのような状況になって、その人たちは、改修は下流から来るのはわかっているので、せめてそれまでの間ぐらい、浚渫とかそういう維持管理だけでもきちんとしてほしいという思いが、実際はあるんだと思うんですけどね。そこまで行き届いてないというのが現実で、そういう意見だと思います。

議長

他は、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

意見がないようですので、大体そしたら今日のこの出ましたものを、これはもう素案になるというわけですか。まだ部内的にいろいろ調整される場所はあるかもしれませんけれども。それから、地域の方々にパブリックコメントをやる……。

事務局

はい。もう一度、中を精査させてもらって、もし精査して修正箇所が出てくれば、もう一度皆さんのところへ郵送か何かで送らせてもらって、確認した上で、パブリックコメントに続いてかけさせてもらうというやり方で。パブリックコメントでまた意見が出てきたら、また次の委員会で説明させてもらうというやり方でさせてもらいたいと思います。

議長

今日欠席の委員の方には、今日のこの資料、何か送られるのでしょうか。

事務局

欠席の委員の方には資料をお渡ししまして、それから1週間から2週間、期間をとりまして、ご意見あればいただいて、その意見を踏まえた上で、パブリックコメントのほうにかけさせていただきたいなとは考えております。

議長

今説明があったような手順で進めていくということですが。

はい、どうぞ。

委員

漁業と、それから魚類についてですが、私、今回から委員になったので、前回の資料ですか、その中でちょっと注意しなければいけないのがあったので。素案の2ページ、「産業」というところなんです、「産業」のところの2行目、「沿岸部ではシラスやハモ、それからワカメなどの」ということが書いてますが、ハモというのは沿岸部では漁獲されなくて、実際は紀伊水道の徳島県側で主に多獲されますので、これはちょっと沿岸部であればハモは外すほうがいいんじゃないかと思いました。

それから、4ページ目に魚類のことが書いてあるんですが、その3行目ですが、「魚類では、汽水魚であるヒイラギ、ボラ」とかいろいろ書いてますが、その汽水魚ということ限定しますと、ちょっとあまりよくないんじゃないか。汽水魚と限定しますと、汽水域をやはり主な生息とする魚類ということになりますので、ここで列記されている魚類については海で主に生息する、あるいは淡水域で生息するという魚類も入っていますので、できたら文章としては「魚類では、汽水域に生息するいろんな魚種等が確認されている」あるいは「見られた」と、そういうふうにしたほうがいいんじゃないかと思いました。

あまり大したことではないんですが、一応、気のついたことを報告しました。

事務局

ありがとうございます。こちらのほうでも再度調査した上で、今のご意見を踏まえて検討させていただきます。検討した結果修正があれば、また修正版のほうを送らせていただくという格好で、一度、確認させていただいて検討いたします。

議長

ありがとうございます。そういうことでよろしいでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、もう一度部内で精査していただいてということにしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。それで、精査していただいて、ただいまご指摘があった点なんかを含めて再度修正をかけていただいて、また我々にもそれは知らせていただけるということで。今日欠席の委員の方にも知らせていただいて、パブリックコメントに進んでいただくという手順でいきたいと思います。

それでは、日方川につきましては、これでよろしいでしょうか。

—— 了 ——